

■長久保赤水 地理学者。日本初の経緯度入り「日本輿地路程全図」を作成出版。農民出身者としては異例の侍講に。

ながくぼせきすい

隅田川の桜・1717＝ 常陸国多賀郡赤浜村(高萩市)で、農家に生まれる。

・・・・・・1719＝ 2歳：誕生直後の弟が死去、

近松没・・・・1724＝ 7歳：母が死去、

懐徳堂公認・1726＝ 9歳：

・・・・・・1727＝10歳：父も死去してしまうという境遇にもかかわらず、

周囲の人たちに支えられて、耕作の合間に読書に励み、

享保大飢饉・1732＝15歳：鈴木玄淳の私塾に入って、漢詩などを学び、

昆陽蕃諸考・1735＝18歳：水戸藩儒名越南溪に師事し、

政治にも関心をもって、農民の立場から農政論を発表、

石田梅岩没・1744＝27歳：

徳川吉宗隠居1745＝28歳：

徳川吉宗没・1751＝34歳：

薩摩藩工事・1753＝36歳：\*(竹林の七賢に倣う)\*松岡七友として、水戸藩から賜金。この頃から、日本地図制作に取組み始め、

大岡忠光没・1760＝43歳：東北・北陸へ旅して、その土地の歴史や習俗を記録した「東奥紀行」を出版。

・・・・・・1762＝45歳：

意次側用人・1767＝50歳：漂流して安南から送還された近郷の水夫の身柄引き取りに、藩役人に庄屋代理として同行し長崎へ赴く。漂民の談話筆記「安南漂流記」やその旅の記録「長崎行役日記」はこの際まとめられた。

・・・・・・1769＝51歳：学問を水戸藩に認められ、武士の末端郷土格に取立てられる。

森幸安の「日本分野図」に学んで、

御蔭参流行・1771＝54歳：

田沼意次老中1772＝55歳：経緯線網をもつ「改正日本輿地路程全図」を完成、

解体新書・・・・1774＝57歳：翌年にかけて京坂に遊学、柴野栗山・皆川棋園・中井竹山・木村兼葭堂・頼春水などの学者文人と交遊。

黄表紙始・・・・1775＝58歳：

・・・・・・1777＝60歳：\*郡奉行の推挙で、農民出身者としては異例の(藩主徳川治保の)侍講に召されて江戸詰となり、

江戸船蝦夷来 1778＝61歳：建白書「農民疾苦」を上書。

源内獄中死・1779＝62歳：\*栗山の序を得て、「改正日本輿地路程全図」を刊行。色彩を施した精度の高いもので、幕末まで好評。

・・・・・・1780＝63歳：

蝦夷初調査・1785＝68歳：江戸時代最大最詳の刊行中国図「大清広輿図」を刊行、

田沼意次失脚1786＝69歳：藩命により、大日本史の地理志の編纂に従事。

寛政改革始・1787＝70歳：「地球万国山海輿地全図説」を刊行開始、

初の横綱・・・・1789＝72歳：

異学の禁・・・・1790＝73歳：「蝦夷図」を制作。

混浴禁止・・・・1791＝74歳：致仕した後も、江戸に残って、さきに命ぜられた「大日本史地理志」編修に専心、

ウキマン来日・1792＝75歳：「東奥紀行」を刊行。中国の歴史地図帳「唐土歴代州郡沿革地図」を刊行した。

松平定信引退1793＝76歳：

古事記伝・・・・1798＝81歳：

蝦夷地直轄始1799＝82歳：\*この頃漸く「大日本史地理志」の撰述を終わり、帰郷して、

本居宣長没・1801＝84歳：故郷の松月亭で、没した。

没後、「長崎行役日記」刊行。

「没年日本史人物事典」, 平凡社百科事典, 「目でみる日本人物百科」, インターネット,